

# ・ シュリンクバック対策実施のお願い (ポリエチレン系シース高圧ケーブル)

## 概要

- エコケーブルのシースもシュリンクバックする事をご存知でしたか？
- 事故防止のためシュリンクバック対策を施して下さい

## 対象製品

- 対象電圧：3300V(3kV)／6600V(6kV)
- 対象製品例
  - ポリエチレンシースケーブル：CE(T)
  - 耐燃性ポリエチレンシースケーブル：EM-CE(T)/F, NH-CE(T)
  - 耐火ケーブル：EM-FP(T)(NH)

## シュリンクバック現象

- 布設後のケーブルシースが徐々に収縮する現象  
使用環境や負荷状況によっては、シュリンクバックに伴って接続部の防食テープが引張られ、内部の銅テープが見える状態になる場合があります。  
更にシュリンクバックが進むと銅テープが破断し、地絡事故へ至る可能性が高くなります。

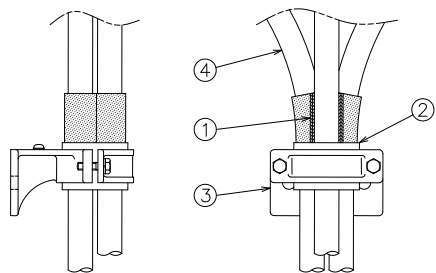


## シュリンクバック対策例

端末部及び接続部において、シースが収縮することがありますので、対策を施してください。  
端末部や直線接続部から1m以内での対策実施を推奨します。

【シースずれ止め用熱収縮チューブによる対策例(端末部)】

シースずれ止め用熱収縮チューブ  
トリプレックス形ケーブル用



① 熱収縮チューブ (内面接着剤付き) ② ゴムスペーサー ③ ブラケット ④ ケーブルシース

【スプリング式アルミクリートによる対策例(端末部、直線接続部共通適用可)】

